

コミュニティルネッサンス版

フルーティティーを楽しみながら

演奏家による音楽の違いを楽しむ

10月30日

参加者のお一人が自分で焼いたパンで作られた美味しいフレンチトーストを差し入れしてくださいました。それとフルーティティーを楽しみながら、モーツァルト作曲のトルコ行進曲を中心に、同じ曲でも演奏家による印象の違いを楽しみました。

福山市立女子短期大学で音楽を教えていらっしゃる村山ひろみさんによる解説付きでした。まず最初は1970年トルコ生まれの“ファジル・サイ”の演奏でした。される部分と、彼の独特のアレンジの部分があります。そうした彼の演奏の特徴を、キーボードでの演奏付きで説明を受けました。



彼の演奏が始まると、これまで聞いていたトルコ行進曲に比べてとても速いなあ、と感じました。解説によると、彼の演奏は彼のアレンジで演奏が続いているいろいろな演奏家によるトルコ行進曲を聞きました。

叙情的な演奏のウラディミール・ホロビッツ、端正な演奏のクリストフ・エッシェンバッハ、モーツァルトのお手本のような演奏のイングリット・ヘブラー、媚びを感じるような内田光子、躍動感のあるイエネ・ヤンドーの演奏。



最後に、ユーロピアン・ジャズ・トリオによるジャズでの演奏、ファジル・サイのジャズ風演奏、アカペラでスキヤットでのトルコ行進曲、中国北京生まれの王羽佳（ユジャ・ワン）によるものすごいテクニックでの演奏、穏やかで心安らぐマリア・ジヨアン・ピレシユの演奏。
土曜日の午後をフルーティティーやフレンチトーストとトルコ行進曲をたっぷり堪能しました。

なかなか思うような会報が作れないまま年の瀬を迎えてしまいました。
来年はもう少し小まめに発行したいと思っています。
一年間ありがとうございました。
よいお年をお迎えください。

Community Renaissance Research Center



会報 第4号(2010.10.1)
広島県福山市木之庄町4-3-14
tel & fax:084-917-5937
e-mail info@crrc-fukuyama.org
URL http://crrc-fukuyama.org/



年越し蕎麦の季節がやってまいりました。蕎麦打ちに挑戦しようと思われる方は応援いたします。ご遠慮なくお越しください。
12月25日(土)10:00当事務所にて行います。